
広瀬和雄年譜

- 1947年（昭和 22 年）
6 月 8 日 京都市伏見区に生まれる
- 1970年（昭和 45 年）
3 月 31 日 同志社大学商学部卒業
- 1975年（昭和 50 年）
4 月 1 日 大阪府教育委員会文化財保護課技師
- 1991年（平成 3 年）
1 月 1 日 大阪府立弥生文化博物館学芸課長
- 1997年（平成 9 年）
4 月 1 日 奈良女子大学教授文学部
- 1998年（平成 10 年）
4 月 1 日 奈良女子大学教授大学院人間文化研究科
- 2004年（平成 16 年）
6 月 17 日 文学博士（大阪大学）取得
10 月 1 日 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館教授研究部
- 2005年（平成 17 年）
4 月 1 日 総合研究大学院大学教授文化科学研究科（併任）

学会および社会における活動歴など

- 所属学会 考古学研究会、日本考古学協会その他
専門分野 日本考古学
主要研究課題 古墳時代政治構造の研究

非常勤講師など

- 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史専攻教授併任
奈良女子大学 C O E 特任教授
立正大学大学院
立正大学文学部
千葉大学大学院・文学部
千葉市民大学
大阪大学大学院・文学部
花園大学大学院・文学部
新潟大学大学院・文学部
大阪府立大学総合科学部
桃山学院大学文学部
富山大学大学院・文学部
奈良国立文化財研究所一般・専門研修など

各種委員など

- 文化審議会文化財分科会第三専門調査会埋蔵文化財委員長（文化庁）
中世城館遺跡・近世大名墓所等の保存検討委員会委員（文化庁）
埋蔵文化財発掘調査等の整備充実に関する調査研究委員会委員（文化庁）

『発掘された日本列島展』企画審査会委員（文化庁）
文化財総合的把握モデル事業選定委員会委員（文化庁）
世界文化遺産特別委員会特別委員（文化庁）
世界文化遺産特別委員会ワーキンググループ委員（文化庁）
『『発掘調査の手引き』作成に係る業務』企画審査会委員（文化庁）
平城宮跡及び藤原宮跡等の保存整備に関する検討委員会（文化庁）
科学研究費委員会専門委員（日本学術振興会）
国立文化財機構理事選考委員会委員長（国立文化財機構）
施設の長選考にかかる推薦委員（国立文化財機構）
日本文化財保護協会資格制度諮問委員（日本文化財保護協会）
東九州自動車道調査指導委員会委員（宮崎県）
西金田城山遺跡群調査指導委員会委員（福岡県福智町）
島根県教育庁古代文化センター・歴史民俗博物館・古代文化研究センター開設準備委員会委員（島根県）
島根県立歴史民俗博物館専門アドバイザー（島根県）
田和山遺跡整備検討委員会委員長（島根県松江市）
史跡造山古墳保存整備委員会委員（岡山市）
加悦町史編纂委員会副委員長（京都府加悦町）
加悦町史監修（京都府加悦町）
国史跡千早城跡・楠木城跡・赤坂城跡整備計画策定委員会委員（大阪府千早赤坂村）
阪南市文化財保護審議会委員（大阪府阪南市）
能勢町文化財保護審議会委員（大阪府能勢町）
和泉市史編纂委員会専門委員（大阪府和泉市）
史跡和泉黄金塚古墳整備指導委員会委員（大阪府和泉市）
国史跡・土塔整備委員会委員（大阪府堺市）
史跡日根荘遺跡保存管理計画策定専門委員（大阪府泉野市）
泉南市文化財専門委員会委員（大阪府泉南市）
新堂廃寺調査指導委員会委員（大阪府富田林市）
大阪府立富田林高校運営協議会委員（大阪府富田林市）
「歴史の里」整備検討会座長（愛知県名古屋市）
「歴史の里」発掘調査等検討委員（愛知県名古屋市）
斐太歴史の里調査整備委員会委員（新潟県妙高市）
釜蓋遺跡調査指導委員会委員（新潟県上越市）
甲塚古墳保存整備委員会会長（栃木県下野市）
出土文化財活用検討委員会委員（千葉県）
栄町龍角寺古墳群調査整備委員会副委員長（千葉県栄町）
大洗町史跡調査検討委員会委員（茨城県大洗町）
文化財保護助成選考委員会委員（朝日新聞文化財団）
『日本考古学』『考古学研究』『考古学雑誌』原稿査読委員など

広瀬和雄主要業績目録

単行書

- 『縄紋から弥生への新歴史像』(314頁) 角川書店 1997年9月
『各地の前方後円墳の消長に基づく古墳時代政治構造の研究』(91頁) 平成10～12年度科学研究費補助金(基礎研究(C)(2)) 研究成果報告 2001年3月
『前方後円墳国家』(260頁) 角川選書 2003年7月
『日本考古学の通説を疑う』(216頁) 洋泉社新書 2003年11月
『古墳時代政治構造の研究』(471頁) 塙書房 2007年3月
『前方後円墳の世界』(201頁) 岩波新書 2010年8月
『カミ観念と古代国家』(260頁) 角川叢書 2010年10月
『古墳時代像を再考する』 同成社 2013年3月近刊

編著書

- 『日本古代史 都市と神殿の誕生』(236頁) 新人物往来社 1998年7月
『丹後の弥生王墓と巨大古墳』(121頁) 季刊考古学 別冊10 雄山閣 2000年8月
『畿内の巨大古墳とその時代』(120頁) 季刊考古学 別冊14 雄山閣 2004年12月
『前方後円墳とちりめん街道 地域史から日本史へ』(240頁) 昭和堂 2005年1月
『歴史研究の最前線6 日本人の心性を探る』(143頁) 吉川弘文館 2006年3月
監修『黄泉之国再見—西山古墳街道』(181頁) 六一書房 2006年12月
『弥生時代はどう変わるか』(210頁) 学生社 2007年3月
『考古学の基礎知識』(382頁) 角川選書 2007年5月
『古代における生産と権力とイデオロギー』(457頁) 国立歴史民俗博物館研究報告第152集 国立歴史民俗博物館 2009年3月

共編著書

- 『日本古代王権の成立』(小路田泰直との共編)(269頁) 青木書店 2002年5月
『古代王権の空間支配』(小路田泰直との共編)(301頁) 青木書店 2003年3月
『弥生時代千年の問い—古代観の大転換—』(小路田泰直との共編)(206頁) ゆまに書房 2003年9月
『古墳時代の政治構造 前方後円墳からのアプローチ』(宇垣匡雅らとの共著)(336頁) 青木書店 2004年5月
『王統譜』(小路田泰直との共編)(224頁) 青木書店 2005年10月
『中世遺跡の保存と活用に関する基礎的研究』(山中章と共編)(62頁) 平成16～17年度科学研究費補助金(特定領域研究) 研究成果報告 2006年3月
『弥生の大型建物とその展開』(伊庭功との共編)(352頁) サンライズ出版 2006年4月
『武蔵と相模の古墳』(池上悟との共編)(167頁) 季刊考古学別冊15 雄山閣 2007年12月
『支配の古代史』(仁藤敦史との共編)(247頁) 学生社 2008年3月
『前方後円墳の終焉』(太田博之との共編)(204頁) 雄山閣 2010年10月
『講座日本の考古学7 古墳時代(上)』(和田晴吾との共編)(787頁) 青木書店 2011年12月
『講座日本の考古学7 古墳時代(下)』(和田晴吾との共編)(611頁) 青木書店 2012年5月
『共同研究 新しい古代国家像のための基礎的研究』『国立歴史民俗博物館研究報告』第179集 2013年3月予定

論文

- 「丹後における古式古墳の編年試論」『同志社考古』10 46～92頁 同志社大学考古学研究会 1973年8月
- 「和泉北部における古墳群の動向」『大園遺跡発掘調査概要』Ⅱ 29～66頁 大阪府教育委員会 1975年3月
- 「和泉・淡輪地域における古墳群の動向」『鴻ノ巣山1号古墳発掘調査報告書』15～30頁 大阪府教育委員会 1977年3月
- 「群集墳研究の一情況」『古代研究』7 1～26頁 元興寺文化財研究所 1975年11月
- 「群集墳論序説」『古代研究』15 1～42頁 元興寺文化財研究所 1978年3月
- 「古墳時代の集落類型」『考古学研究』97 7～17頁 考古学研究会 1978年6月
- 「大園遺跡の集落構成」『撰河泉文化資料』16～23頁 北村文庫会 1978年4月
- 「大溝出土の日用雑器についての2, 3の考察」『大園遺跡発掘調査概要』Ⅴ 50～63頁 大阪府教育委員会 1981年3月
- 「6世紀後半における集落遺跡出土土器の2, 3の考察」『大園遺跡発掘調査概要』Ⅵ 41～47頁 1981年3月
- 「考古資料」『能勢町史第4巻 資料編』13～278頁 能勢町 1981年12月
- 「大園遺跡における集落の展開」『大園遺跡発掘調査概要』Ⅶ 82～98頁 大阪府教育委員会 1982年3月
- 「10世紀後葉の土器群についての覚書」『観音寺遺跡発掘調査報告書』20～40頁 大阪府教育委員会 1982年3月
- 「河内古市大溝の年代とその意義」『考古学研究』116 53～69頁 考古学研究会 1983年3月
- 「奈良時代集落についての2, 3の問題」『大堀城跡』93～96頁 大阪府教育委員会, (財)大阪文化財センター 1984年3月
- 「古代の開発」『考古学研究』118 35～69頁 考古学研究会 1983年10月
- 「群集墳研究の課題と方法」『歴史科学』14～24頁 大阪歴史科学協議会 1984年3月
- 「中世への胎動」近藤義郎他編『岩波講座日本考古学』6 295～356頁 岩波書店 1986年1月
- 「弥生土器の編年と2, 3の問題」『亀井』その2 247～282頁 大阪府教育委員会, (財)大阪文化財センター 1986年3月
- 「開発の諸段階と集団関係」『季刊考古学』16 50～55頁 雄山閣出版 1986年8月
- 「海会寺遺跡の構造」『海会寺遺跡発掘調査報告書』129～167頁 泉南市教育委員会 1987年9月
- 「大王墓の系譜とその特質(上)」『考古学研究』135 23～46頁 考古学研究会 1987年12月
- 「堰と水路」金関恕・佐原真編『弥生文化の研究』2 39～53頁 雄山閣 1988年3月
- 「大王墓の系譜とその特質(下)」『考古学研究』136 68～84頁 考古学研究会 1988年3月
- 「大阪府における豪族の居館跡」『考古学ジャーナル』289 16～22頁 ニュー・サイエンス社 1988年4月
- 「中世村落の形成と展開」『物質文化』50 7～27頁 物質文化研究会 1988年5月
- 「近畿地方における土器製塩」『考古学ジャーナル』298 13～20頁 ニュー・サイエンス社 1988年11月
- 「畿内の条里地割」『考古学ジャーナル』310 2～9頁 ニュー・サイエンス社 1989年3月
- 「畿内の古代集落」『国立歴史民俗博物館研究報告』22 29～110頁 国立歴史民俗博物館 1989年3月
- 「弥生文化の諸相」『考古学が語る戦争と差別』12～33頁 大阪人権歴史博物館 1989年11月
- 「考古学から見た大阪平野」『大阪府史』2巻 644～677頁 大阪府 1990年3月
- 「西日本の集落」石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編『古墳時代の研究』2 92～114頁 雄山閣 1990年6月
- 「耕地と灌漑」石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編『古墳時代の研究』4 11～35頁 雄山閣 1991年1月
- 「中世後期における在出土器の展開」『関西近世考古学研究』Ⅰ 45～50頁 関西近世考古学研究会 1991年1月
- 「古代国家の萌芽」『大阪府史』別巻 176～183頁 大阪府 1991年3月
- 「古代の農村」日本村落史講座編集委員会編『日本村落史講座 景観Ⅰ 原始・古代・中世』105～137頁 雄山閣 1991年8月
-

-
- 「土木技術」石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編『古墳時代の研究』5 113～125頁 雄山閣
1991年9月
- 「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成』九州編 24～26頁 山川出版社 1992年2月
- 「大阪湾岸と三河湾岸の土器製塩」『弥生文化博物館研究報告』1 101～113頁 大阪府立弥生文化博物館
1992年3月
- 「弥生宗教の変容」『弥生文化博物館平成4年春期特別展図録 弥生の神々』49～52頁 大阪府立弥生文化
博物館 1992年4月
- 「前方後円墳成立の歴史的背景」『弥生文化博物館平成4年秋季特別展図録 激動の3世紀』82～90頁 大
阪府立弥生文化博物館 1992年10月
- 「東アジアにおける4世紀の古墳」『弥生文化博物館平成4年秋季特別展図録 激動の3世紀』92～97頁
大阪府立弥生文化博物館 1992年10月
- 「近畿地方の概観」近藤義郎編『前方後円墳集成』近畿編 29～34頁 山川出版社 1992年12月
- 「古墳時代の社会構造」『歴史評論』514 19～38頁 歴史科学協議会 1993年2月
- 「弥生時代首長イデオロギーの形成」『弥生文化博物館研究報告』2 1～36頁 大阪府立弥生文化博物館
1993年3月
- 「みちのく弥生文化論」『弥生文化博物館平成5年春期特別展図録 みちのく弥生文化』49～58頁 大阪府
立弥生文化博物館 1993年4月
- 「楽浪漢墓と弥生首長」『弥生文化博物館平成5年秋季特別展図録 弥生人の見た楽浪文化』63～72頁 大
阪府立弥生文化博物館 1993年10月
- 「大阪府」近藤義郎編『日本土器製塩研究』450～489頁 青木書店 1994年3月
- 「考古学から見た古代の村落」朝尾直弘他編『岩波講座日本通史』3 127～162頁 岩波書店 1994年4月
- 「横口式石槨の編年と系譜」『考古学雑誌』80-4 34～74頁 日本考古学会 1995年3月
- 「中世の和泉」『泉佐野の遺跡 中世編』泉佐野市教育委員会 1～29頁 1995年3月
- 「船—考古資料からみたその変遷—」『日本の美術』4 93～98頁 至文堂 1995年4月
- 「古墳時代首長居館論」『展望考古学』139～147頁 考古学研究会 1995年6月
- 「縄紋農耕と水田稲作の開始」金関恕・大阪府立弥生文化博物館編『弥生文化の成立』236～247頁 角川
選書 1995年9月
- 「7世紀の大王墓試論」日本史研究会・京都民科歴史部会編『陵墓からみた日本史』78～84頁 青木書店
1995年11月
- 「条里制」大塚初重・白石太一郎・西谷正・町田章編『考古学による日本史』16 137～146頁 雄山閣
1996年5月
- 「古墳時代の首長と農民」『情況』別冊『日本の古代を開く』36～56頁 情況出版 1996年5月
- 「弥生の防御集落と豪族居館」『城郭研究最前線』86～93頁 新人物往来社 1996年10月
- 「神殿と農耕祭祀—弥生宗教の成立と変遷—」『弥生の環濠集落都市と巨大神殿』110～123頁 池上曾根遺
跡史跡指定20周年記念事業実行委員会 1996年12月
- 「弥生時代の首長—政治社会の形成と展開—」『弥生の環濠集落都市と巨大神殿』130～144頁 池上曾根遺
跡史跡指定20周年記念事業実行委員会 1996年12月
- 「王と民衆」『日本古代史王権の最前線』94～101頁 新人物往来社 1997年2月
- 「群集墳と武器の副葬」『日本古代史〔争乱〕の最前線』150～157頁 新人物往来社 1998年2月
- 「西瀬戸内の弥生都市・文京遺跡」『考古学研究』177 9～13頁 考古学研究会 1998年6月
- 「弥生時代の都市と神殿をめぐって」広瀬和雄編『都市と神殿の誕生』1～5頁 新人物往来社 1998年7月
- 「弥生時代の「神殿」」広瀬和雄編『都市と神殿の誕生』67～82頁 新人物往来社 1998年7月
- 「クラから神殿へ」浅川滋男編『先史日本の住居とその周辺』326～351頁 同成社 1998年12月
- 「弥生都市の成立」『考古学研究』45-3 34～56頁 考古学研究会 1998年12月
- 「横口式石槨の変遷」羽曳野市教育委員会編『河内飛鳥と終末期古墳』64～90頁 吉川弘文館 1998年
12月
-

-
- 「中世農村の考古学的研究」『中世集落と灌漑』39～65頁 大和古中近研究会編 1999年2月
「狭山池築造の歴史的特質」『狭山池論考編』33～43頁 狭山池調査事務所 1999年3月
「転換期の考古学」『奈良歴史研究』51・52合併号 1～10頁 奈良歴史研究会 1999年5月
「弥生墳墓と政治関係」『季刊考古学』67 14～18頁 雄山閣 1999年5月
「供献土器の意義」『季刊考古学』67 24～28頁 雄山閣 1999年5月
「「神殿論批判」への反論」『考古学研究』183 1～5頁 考古学研究会 1999年12月
「副葬という行為」『季刊考古学』70 14～18頁 雄山閣 2000年2月
「生産経済民の副葬行為—古墳文化（後期）」『季刊考古学』70 47～52頁 雄山閣 2000年2月
「古代の開発」小笠原好彦・吉村武彦編『展望日本の歴史』（再録）140～168頁 東京堂出版 2000年2月
「耕地の開発」佐原真・都出比呂志編『古代史の論点』243～274頁 小学館 2000年3月
「佐紀古墳群をめぐる諸問題」『百樹』109～128頁 松村隆文さん追悼集刊行会 2000年6月
「弥生王墓と巨大古墳の特質」広瀬和雄編『丹後の弥生王墓と巨大古墳』季刊 考古学・別冊10 10～18頁 雄山閣 2000年8月
「丹後の巨大古墳」広瀬和雄編『丹後の弥生王墓と巨大古墳』季刊 考古学・別冊10 73～83頁 雄山閣 2000年8月
「椿井大塚山古墳と大和・柳本古墳群」伊達宗泰編『古代「おおやまと」を探る』172～184頁 学生社 2000年10月
「日本考古学は有効か！—西尾幹二『国民の歴史』に寄せて」『考古学研究』187号 10～15頁 考古学研究会 2000年12月
「くつがえる弥生文化のイメージ」設楽博巳編『三国志がみた倭人たち』33～54頁 山川出版 2001年4月
「7世紀の畿内首長層の動向」『東海の後期古墳を考える』東海フォーラム・三河古墳研究会 281～302頁 2001年2月
「原始・古代」『能勢町史第1巻 本文編』107～264頁 能勢町 2001年5月
「中世後期の村落」『三重県久居市上野遺跡に関する総合研究』85～100頁 平成13年度三重大学重点経費研究成果報告書 2002年3月
「前方後円墳と大和政権—「非文字資料」からの古代王権へのアプローチ—」1～31頁 広瀬和雄・小路田泰直編『日本古代王権の成立』青木書店 2002年5月
「埋蔵文化財行政と考古学研究」『文化庁月報』18～19頁 文化庁 2002年6月
「近江・野洲地域首長墓の歴史的意義—甲山古墳と丸山古墳の巨石墳をめぐる—」『環瀬戸内海の考古学—平井勝氏追悼論文集—』下巻 273～288頁 古代吉備研究会 2002年11月
「畿内五大古墳群の政治的配置—古墳時代政治中枢の場をめぐる—」広瀬和雄・小路田泰直編『古代王権の空間支配』1～31頁 青木書店 2003年3月
「『貧しい縄文』を弥生文化が救ったのか」『論座』95 172～181頁 朝日新聞社 2003年4月
「余剰生産が富裕層・支配層を生み出したのか」『論座』96 190～199頁 朝日新聞社 2003年5月
「弥生時代に『都市』はなかったのか」『論座』97 202～211頁 朝日新聞社 2003年6月
「埋蔵文化財行政はなぜ可能か」『考古学研究』197 11～17頁 考古学研究会 2003年6月
「前方後円墳とはなにか」『論座』98 204～213頁 朝日新聞社 2003年7月
「『カミ』や『他界』は論証できないか」『論座』99 198～207頁 朝日新聞社 2003年8月
「新しい弥生開始年代のもたらすもの—歴史観の変換をめざして—」広瀬和雄・小路田泰直編『弥生時代千年の問い—古代観の大転換—』31～48頁 ゆまに書房 2003年9月
「住居と集落」大塚初重・吉村武彦編『古墳時代の日本列島』183～208頁 青木書店 2003年10月
「新しい弥生開始年代の意義」『東アジアの古代文化』117号 大和書房 141～150頁 2003年11月
「新しい弥生開始年代によせて」『考古学ジャーナル』510号 12～16頁 ニュー・サイエンス社 2003年12月
「日本の文明化」『国立歴史民俗博物館研究報告』第119集 263～283頁 国立歴史民俗博物館 2004年3月
「紀伊岩橋千塚古墳群の諸問題」伊達宗泰監修『地域と古文化』119～129頁 2004年3月
-

-
- 「前方後円墳国家論序説」『考古学研究会 50 周年記念論文集 文化の多様性と比較考古学』251～260 頁
考古学研究会 2004 年 3 月
- 「序論」広瀬和雄ほか『古墳時代時代の政治構造 前方後円墳からのアプローチ』1～14 頁 青木書店
2004 年 5 月
- 「畿内五大古墳群の特質」広瀬和雄ほか『古墳時代の政治構造 前方後円墳からのアプローチ』17～35 頁
青木書店 2004 年 5 月
- 「大和政権の変質—古墳時代中期政治構造への試論」広瀬和雄ほか『古墳時代時代の政治構造 前方後円墳か
らのアプローチ』249～272 頁 青木書店 2004 年 5 月
- 「弥生・古墳時代の集落と地域社会」歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座 1 東アジアにおける国
家の形成』241～265 頁 東京大学出版会 2004 年 5 月
- 「中世後期の村落—畿内とその周辺を中心として」藤田達生編『伊勢国北畠氏の研究』166～187 頁 吉川
弘文館 2004 年 8 月
- 「序論」10～15 頁 広瀬和雄編『畿内の巨大古墳とその時代』季刊 考古学・別冊 14 雄山閣 2004 年 12 月
- 「畿内五大古墳群の諸相」16～26 頁 広瀬和雄編『畿内の巨大古墳とその時代』季刊 考古学・別冊 14 雄
山閣 2004 年 12 月
- 「大型前方後円墳の語るもの—蛭子山古墳と白米山古墳を中心として—」広瀬和雄編『前方後円墳とちりめ
ん街道 地域史から日本史へ』77～114 頁 昭和堂 2005 年 1 月
- 「古墳時代の王統譜に関する一考察」広瀬和雄・小路田泰直編『王統譜』40～52 頁 青木書店 2005 年 10
月
- 「横穴式石室築造の思想」鈴木博之・石山修武・伊藤毅・山岸常人編『シリーズ都市・建築・歴史 1 記念
的建造物の成立』365～390 頁 東京大学出版会 2006 年 2 月
- 「和泉国の古代寺院」『和泉市史紀要』7～23 頁 和泉市史編さん会 2006 年 3 月
- 「古代人の心性を探る—弥生古墳時代の首長墓からのアプローチ—」広瀬和雄編『日本人の心性を探る』6
～69 頁 総研大 日本歴史研究専攻・国立歴史民俗博物館 2006 年 3 月
- 「領主居館の成立と展開」小野正敏・萩原三雄編『鎌倉時代の考古学』81～94 頁 高志書院 2006 年 6 月
- 「埋蔵文化財報道と考古学」『小笠原好彦先生退任記念論集』1299～1312 頁 小笠原好彦先生退任記念論集
編集委員会 2007 年 3 月
- 「古墳時代」広瀬和雄編『考古学の基礎知識』225～306 頁 角川書店 2007 年 5 月
- 「新しい弥生像に向けて」『弥生はいつから—年代研究の最前線』84～85 頁 国立歴史民俗博物館 2007 年
7 月
- 「前方後円墳論」『季刊考古学第 100 号 特集 21 世紀の日本考古学』70～73 頁 雄山閣 2007 年 8 月
- 「古墳時代東国像の構築に向けて」10～16 頁 広瀬和雄・池上悟編『武蔵と相模の古墳』季刊 考古学・別
冊 15 雄山閣 2007 年 12 月
- 「相模の二つの古墳群—秋葉山古墳群と長柄桜山古墳群—」68～76 頁 広瀬和雄・池上悟編『武蔵と相模
の古墳』季刊 考古学・別冊 15 雄山閣 2007 年 12 月
- 「6・7 世紀の東国政治動向（予察）—上総・下総・下野・武蔵地域の横穴式石室を素材として—」『古代日
本の支配と文化』奈良女子大学 21 世紀 COE プログラム報告集 Vol.18 1～41 頁 奈良女子大学 21 世紀
COE プログラム《古代日本形成の特質解明の研究教育拠点》2008 年 2 月
- 「六・七世紀の「民衆」支配」広瀬和雄・仁藤敦史編『支配の古代史』10～37 頁 学生社 2008 年 3 月
- 「古墳時代の生業論をめぐって」国立歴史民俗博物館編『生業から見る日本史—新しい歴史学の射程—』
182～190 頁 吉川弘文館 2008 年 3 月
- 「古代観の転換に向けての一考察—弥生時代に「自給自足」社会は存在したか—」『日本史の方法』第 7 号
52～77 頁 日本史の方法研究会 2008 年 5 月
- 「弥生墳墓と神殿—前方後円墳祭祀と弥生墳墓祭祀—」『国士館考古学』第 4 号 1～19 頁 国士館考古学
会 2008 年 5 月
- 「常陸・上総の畿内型横穴式石室」『上野恵司氏追悼論集』57～70 頁 橘考古学会 2008 年 3 月
-

-
- 「考古学研究と博物館」『考古学研究』55-1 17～22頁 考古学研究会 2008年6月
- 「考古学研究と博物館—〈快適環境づくり〉と自治体・研究者の役割—」『考古学研究』217号 17～22頁 考古学研究会 2008年6月
- 「弥生・古墳時代のカミ観念」『三輪山と古代の神まつり』42～71頁 学生社 2008年8月
- 「前方後円墳祭祀の論理—墳頂部の内方外円区画をめぐる—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第145集 175～210頁 国立歴史民俗博物館 2008年11月
- 「古墳時代は律令国家の前史か？」『東アジアの古代文化』137号 最終号 263～265頁 大和書房 2009年1月
- 「山陰の弥生都市—山陰東部地域の非農耕的な大型集落—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第149集 313～334頁 国立歴史民俗博物館 2009年3月
- 「古墳時代像再構築のための考察—前方後円墳時代は律令国家の前史か—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第150集 33～147頁 国立歴史民俗博物館 2009年3月
- 「装飾古墳の変遷と意義—靈魂観の成立をめぐる—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第152集 273～314頁 国立歴史民俗博物館 2009年3月
- 「共同研究・古代における生産と権力とイデオロギー」『国立歴史民俗博物館研究報告』第152集 国立歴史民俗博物館 2009年3月
- 「古墳時代の国家フロンティア」『古代学』第1号 1～17頁 奈良女子大学古代学学術研究センター・奈良女子大学 21世紀COEプログラム《古代日本形成の特質解明の研究教育拠点》2009年3月
- 「古墳時代の椅子—首長の権威発揚の場をめぐる—」『家具道具室内史』創刊号 21～39頁 家具道具室内史学会 2009年5月
- 「壱岐島の後・終末期古墳の歴史的意義—6・7世紀の外交と「国境」—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第158集 107～141頁 国立歴史民俗博物館 2010年3月
- 「古墳群形成の論理—畿内5大古墳群の立地環境をめぐる—」『同志社大学考古学研究会50周年記念論集』91～109頁 50周年記念論集編集委員会 2010年6月
- 「東国における前方後円墳の終焉」広瀬和雄・太田博之編『前方後円墳の終焉』2～14頁 雄山閣 2010年10月
- 「しもつけ古墳群の歴史的意義—6年7世紀の東国政策をめぐる—」『2010年度壬生町立歴史民俗資料館企画展 しもつけ古墳群—下毛野の霸王、吾妻ノ岩屋から車塚へ—』47～57頁 壬生町立歴史民俗資料館 2011年2月
- 「下野地域の後・終末期古墳の歴史的意義—6～7世紀・東国統治の一事例—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第163集 177～242頁 国立歴史民俗博物館 2011年3月
- 「体系的な古墳時代像を求めて」14～17頁 『季刊 考古学』117 雄山閣 2011年11月
- 「東国」『季刊 考古学』117 83～89頁 雄山閣 2011年11月
- 「序論」広瀬和雄・和田晴吾編『講座日本の考古学7 古墳時代（上）』X～XVI頁 青木書店 2011年12月
- 「前方後円墳とはなにか」広瀬和雄・和田晴吾編『講座日本の考古学7 古墳時代（上）』3～53頁 青木書店 2011年12月
- 「東京湾岸・「香取海」沿岸の前方後円墳—5～7世紀の東国統治の一事例—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第167集 67～112頁 国立歴史民俗博物館 2012年1月
- 「多摩川流域の後・終末期古墳—7世紀における東国地域の動態—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第170集 19～67頁 国立歴史民俗博物館 2012年3月
- 「古墳時代の首長」『国立歴史民俗博物館研究報告』第175集 129～162頁 国立歴史民俗博物館 2013年1月
- 「山城・蛇塚古墳をめぐる二、三の問題」『国立歴史民俗博物館研究報告』第178集 143～176頁 国立歴史民俗博物館 2013年3月近刊
- 「終末期古墳の歴史的意義」『国立歴史民俗博物館研究報告』第179集 国立歴史民俗博物館 2013年3月予定
-

「和泉黄金塚古墳とその時代」和泉市の歴史6 テーマ叙述編I『和泉市の考古・古代・中世』和泉市
2013年3月

研究ノート、書評、講演・シンポジウム記録など（発掘調査報告書は除く）

- 「大阪府大園遺跡」『日本考古学年報』29 67～69頁 日本考古学協会 1978年4月
「池田遺跡における7・8世紀の集落構成」『大阪府下埋蔵文化財担当者研究会 第2回資料』1～8頁 大
阪府教育委員会 1980年6月
「古代の開発」『考古学研究』116 5～7頁 考古学研究会 1983年3月
「集落と住居」岩崎卓也・菊池徹夫・茂木雅博編『考古学調査研究ハンドブックス1 野外編』131～136頁
雄山閣出版 1984年10月
「江南の大運河」岸俊男編『中国江南の都城遺跡』54～60頁 同朋社 1985年3月
「大阪・池田寺遺跡」『本簡研究』第7号 45～46頁 本簡学会 1985年11月
「海会寺の調査」『日本歴史』462 日本歴史学会 1986年
「塩つくりのりびと」『大阪湾をめぐる文化の流れ』帝塚山考古学研究所 84～97頁 1987年11月
「大阪府海会寺遺跡」『日本考古学年報』39 512～518頁 日本考古学協会 1988年4月
「1987年の歴史学界—回顧と展望—日本考古」『史学雑誌』97-5 34～40頁 史学会 1988年5月
「書評「向日市教委『物集女車塚』, 出雲考古学研究会『石棺式石室の研究』」『考古学研究』139 110～116
頁 考古学研究会 1988年12月
「パネルディスカッション—歴史・開発・そして共存—」『第2回南河内再開発シンポジウム 歴史を活かし
たまちづくり—歴史・開発・そして共存—』南河内地域広域行政推進協議会 27～59頁 1989年2月
「大王墓の系譜とその特質」『古市古墳群をめぐる諸問題』3～17頁 藤井寺市教育委員会 1989年3月
「女王卑弥呼の居館」『歴史群像特別編集 最新邪馬台国論』10～13頁 学習研究社 1989年9月
「巨大古墳を考える」『大阪湾と巨大古墳』第2回歴史の華ひらく泉南シンポジウム8～9頁 泉南市・泉南
市教育委員会 1989年11月
「中世領主の居館の成立」『武士の発生』53～58頁 東京都埋蔵文化財センター 1990年2月
「鼎談中世居館」『自然と文化』30 4～17頁 観光資源保護財団 1990年9月
「弥生文化と現代」『卑弥呼とその時代』第3回歴史の華開くシンポジウム 14～15頁 泉南市・泉南市教
育委員会 1990年11月
「近つ飛鳥の古墳—金山古墳をめぐる—」『近つ飛鳥の古墳文化』河南町 河南町教育委員会 7～16頁
1991年3月
「武士の発生—馬と鉄—討論記録」『研究論集』IV 87～150頁 東京都埋蔵文化財センター 1991年3月
「博物館案内・大阪府立弥生文化博物館」『考古学ジャーナル』No.332 35～36頁 ニューサイエンス社
1991年5月
「弥生文化への招待」『月刊百科』344 38～40頁 1991年6月
「歴史時代（古代）研究の動向」『日本考古学年報』42 18～22頁 日本考古学協会 1991年7月
「考古学から見た中世村落—畿内の場合」『中世の都市と農村』第4回歴史の華開くシンポジウム 6～15
頁 泉南市・泉南市教育委員会 1991年11月
「弥生時代の灌漑システム」『フロント』1992-2 64～67頁 (財)リバーフロント整備センター 1992年2月
「紹介 西播流域史研究会『有年考古館蔵品目録』」『弥生文化博物館研究報告』1集 114～115頁 大阪府
立弥生文化博物館 1992年3月
「博物館紹介・大阪府立弥生文化博物館」『古代学研究』127 41～42頁 1992年4月
書評「直木孝次郎・小笠原好彦編著『クラと古代王権』」『考古学研究』153 128～132頁 考古学研究会
1992年6月
「住居と集落」『図解日本の人類遺跡』220～223頁 東京大学出版会 1992年9月
「豪族居館の変貌」『古代の豪族』第5回歴史の華開くシンポジウム 12～13頁 泉南市・泉南市教育委員
会 1992年11月

-
- 「巨大古墳」西島定生他『巨大古墳と伽那文化』角川選書 85～108頁 1992年12月
- 「土器製塩の諸段階—畿内を中心として—」『泉佐野歴史文化フォーラム 塩の古代史—和泉の製塩遺跡をめぐって—』泉佐野市教育委員会 9～27頁 1993年10月
- 「7世紀の考古学—畿内を中心として」『日本古代国家の成立を探る』第6回歴史の華開くシンポジウム 6～15頁 泉南市・泉南市教育委員会 1993年11月
- 「考古学からみた古市大溝」『第8回はびきの歴史シンポジウム 古代の開発 古市大溝の果たした役割』羽曳野市・羽曳野市教育委員会 26～31頁 1993年11月
- 「新刊紹介 千田嘉博ほか『城館調査ハンドブック』」『考古学研究』160 145頁 考古学研究会 1994年3月
- 「7世紀の古墳」『前方後円墳の終焉』17～32頁 河南町 河南町教育委員会 1994年3月
- 「前方後円墳研究の指針」『前方後円墳の出現をめぐって』156～180頁 両丹考古学研究会 1994年10月
- 「終末期古墳の変遷」『第9回はびきの歴史シンポジウム 横口式石槨の謎』38～49頁 羽曳野市・羽曳野市教育委員会 1994年11月
- 「農業生産の発達」『古代の技術革新』第7回歴史の華開くシンポジウム 8～15頁 泉南市・泉南市教育委員会 1994年11月
- 「古墳時代前・中期の首長居館」『ムラと地域社会の変貌—弥生から古墳へ—』5～8頁 埋蔵文化財研究会 1995年1月
- 「古代の首長居館—畿内及びその周辺の事例を中心にして—」『日本考古学協会1995年度茨城大会 シンポジウム3 地方官衙とその周辺』29～32頁 日本考古学協会 1995年1月
- 「『前方後円墳の時代』に想う—古墳時代研究メモ—」『近藤義郎古稀記念考古文集』122～127頁 考古文集編集委員会 1995年2月
- 「古代の首長居館」『茨城県考古学協会誌第12号 日本考古学協会1995年度大会』143～152頁 1995年5月
- 「阪神大震災と埋蔵文化財行政」『月刊文化財発掘出土情報』1995年4月
- 「弥生時代の畑稲作」『花園大学研究室だより』1頁 花園大学考古学研究室 1995年6月
- 「古代の首長居館—畿内およびその周辺の事例を中心にして—」『日本考古学協会1995年度大会発表要旨』53頁 日本考古学協会 1995年11月
- 「古代の水田開発」『第2回 狭山池フォーラム 狭山池の築造と古代の大開発』大阪狭山市・大阪狭山市教育委員会 31～39頁 1995年11月
- 「考古学からみた古代の神々」『仏教の受容と古代国家』第8回歴史の華開くシンポジウム 8～15頁 泉南市・泉南市教育委員会 1996年11月
- 「クラから神殿へ—古代のカミ観念に関する一試論—」『平地住居と高床建物』102～115頁 奈良国立文化財研究所 1996年10月
- 「河内の渡来人—渡来文化の諸段階と渡来人—」『近江・河内・大和の渡来人』80～108頁 (財)滋賀県文化財保護協会、滋賀県立安土考古博物館 1996年3月
- 「能勢町の古墳」『総合調査報告書』24～29頁 大阪府教育委員会 1996年3月
- 「瀬戸内東部の土器製塩」『古代の塩作りシンポジウム』23～38頁 藻刈町・藻刈町教育委員会、古代の塩作りシンポジウム委員会 1996年9月
- 「コメ生産の諸段階」『弥生文化の成立』第9回歴史の華ひらく泉南シンポジウム 12～17頁 泉南市・泉南市教育委員会 1996年11月
- 「三大古墳と大王墓」『日本海三大古墳がなぜ丹後につくられたのか』69～80頁 加悦町・加悦町教育委員会 1997年3月
- 鼎談『激論 海会寺』泉南市教育委員会、大阪府立弥生文化博物館 6～41頁 1997年3月
- 「報告3 石宝殿古墳の年代」, パネルディスカッション「石宝殿古墳の謎に迫る」『平成7年度 文化と歴史のネットワークづくり事業 歴史シンポジウム・講演会記録集 石宝殿古墳の謎に迫る—なぜ古墳がつくられなくなったのか—』寝屋川市教育委員会 16～27頁, 28～43頁 1997年3月
- 「大型古墳の築造」『大型古墳の築造と企画』東広島市教育委員会 1997年3月
-

-
- 「日本の巨大古墳」『「和の国」連続国際シンポジウム 巨大墓と文明』15～18頁 奈良県教育委員会 1997年
- 「弥生時代の『神殿』『弥生のまつりと大型建物』11～19頁 史跡池上曾根遺跡整備委員会 1997年
- 「巨大古墳と倭の五王」AERAMook『考古学がわかる』36～37頁 朝日新聞社 1997年6月
- 「古代寺院成立の歴史的背景」『第42回埋蔵文化財研究会 古代寺院の出現とその背景』1～5頁 香芝市二上山博物館・埋蔵文化財研究会 1997年8月
- 「前方後円墳成立の歴史的意義」『人文科学とデータベース』11～17頁 公開シンポジウム実行委員会 1997年12月
- 記念講演「古代の開発における二つの画期」『第7回東日本埋蔵文化財研究会 治水・利水遺跡を考える—人は水とどのようにつきあってきたか—』〈第Ⅱ分冊発表要旨・紙上発表編〉東日本埋蔵文化財研究会 2～7頁 1998年2月
- 「都城以前の都市—弥生環濠都市の提唱—」『考古学研究』176 23～24頁 考古学研究会 1998年3月
- 「シンポジウム弥生時代の環濠都市と巨大神殿」広瀬和雄編『都市と神殿の誕生』151～230頁 新人物往来社 1998年7月
- 「シンポジウム河内飛鳥と終末期古墳」羽曳野市教育委員会編『河内飛鳥と終末期古墳』156～205頁 吉川弘文館 1998年12月
- 「新刊紹介『原始絵画』」『考古学研究』176 118頁 考古学研究会 1998年3月
- 「弥生都市の実像」『文京遺跡シンポジウム—弥生大集落の解明』83～94頁 愛媛大学埋蔵文化財調査室 1998年6月
- 「古墳時代の動向」『日本考古学年報』49 30～36頁 日本考古学協会 1998年7月
- 「霊魂と肉体の分離観念なかった」『月刊古代研究』17～24頁 奈良日日新聞社 1998年8月
- 「王陵の谷と古代国家」『リレーイベント 南河内歴史発見ショー 記録集』南河内文化会館連絡協議会ほか 17～19頁 1999年1月
- 「弥生時代の都市と農村」『都市の誕生』17～26頁 奈良女子大学古代学術研究センター準備室 1999年3月
- 「大和政権の変質—古市古墳群の歴史的意義」『古市古墳群とその時代—王権の構造と社会の変化』26～39頁 藤井寺教育委員会 1999年3月
- 「畿内から見た丹後の弥生社会」『丹後の弥生社会を斬る』加悦町・加悦町教育委員会 77～89頁 1999年3月
- 「弥生時代の都市と農村」『尾張平野を語る』154～166頁 一宮博物館 1999年3月
- 「展示批評・新しい弥生像をめぐって」『歴博』94号 27頁 国立歴史民俗博物館 1999年5月
- 「中国の鏡（呉鏡）と三角縁神獣鏡」『隔月古代研究』1999-10号 11～15頁 奈良日日新聞社 1999年9月
- 「日本の文明化」『東アジアにおける農耕社会の形成と文明への道』104～114頁 国立歴史民俗博物館 2000年1月
- 「大和政権の変質」『古市古墳群とその時代』31～68頁 藤井寺市教育委員会 2000年3月
- 「座談会・これからの埋蔵文化財行政を考える」『考古学研究』184号 10～21頁 考古学研究会 2000年3月
- 「弥生王墓とその社会」『弥生王墓の誕生』2～10頁 加悦町・加悦町教育委員会 2000年5月
- 「小方墳についての覚書」『百樹』松村隆文さん追悼集 58頁 2000年6月
- 「畿内弥生社会と青銅器」『文化と歴史のネットワークづくり事業 歴史シンポジウム資料 青銅器の生産と弥生社会—楠遺跡出土の青銅器鑄造関連遺物をめぐって—』寝屋川市・寝屋川市教育委員会 31～37頁 2001年3月
- 「座談会・これからの埋蔵文化財を考える（第2回：市町村における文化財行政）」『考古学研究』188号 11～20頁 考古学研究会 2001年3月
- 「日吉ヶ丘遺跡の時代の列島・韓半島の墳墓」『加悦町歴史討論会 緊急対談 丹後最古の王墓「日吉ヶ丘墳墓」出現の謎に迫る 資料集』加悦町・加悦町教育委員会 25～36頁 2001年11月
- 「対談 奈良に古代学研究センターを—歴史像をトータルに描く」『古代学の十字路』1頁 奈良女子大学古
-

-
- 代学術研究センター準備室 2002年3月
- 「弥生王墓とその社会—時代の鍵—」, パネルディスカッション『第5回加悦町文化財シンポジウム 弥生王墓の誕生—弥生社会の到達点—』加悦町・加悦町教育委員会 6～14頁, 72～106頁 2002年3月
- 「前方後円墳はなぜつくられたか／カミになる方法・道具独占」『古代学の十字路』2頁 奈良女子大学古代学術研究センター準備室 2002年3月
- 「灌漑水田と古代社会」『水と古代文明—古代文明・国家をささえた治水・灌漑』12～17頁 大阪府立狭山池博物館 2002年3月
- 討議「三世紀のクニグニ—魏志倭人伝の時代の吉備を探る—」『三世紀のクニグニ・古代の生産と工房』109～141頁 考古学研究会 2002年5月
- 討論「古代王権の成立」227～266頁 広瀬和雄・小路田泰直編『日本古代王権の成立』青木書店 2002年5月
- 「弥生文化の成立と展開」『第8回古代史博物館フォーラム 歴史を語る 第8話 泉南の弥生時代を考える』2～9頁 泉南市・泉南市教育委員会 2002年6月
- 『日本考古学事典』田中琢・佐原真編 2002年8月
- 「巨大古墳の謎」AERAMook『古代史がわかる』42～45頁 朝日新聞社 2002年8月
- 「『前方後円墳国家』を読む」『ふくおか歴史文化フォーラム図録 黄泉之国発見—西山古墳街道—』2～9頁 福岡町教育委員会 2002年9月
- 「大和の後期前方後円墳」『【シンポジウム】後期古墳の諸段階 発表要旨資料』1～11頁 関東・東北前方後円墳研究会 2003年2月
- 「巨大古墳の謎」大塚初重編『史話日本の古代4 巨大古墳を造る』96～101頁 作品社 2003年2月
- 討論「古代王権の空間支配」284～298頁 広瀬和雄・小路田泰直編『古代王権の空間支配』青木書店 2003年3月
- 「古市古墳群の終焉—後期大和政権への考古学的アプローチ—」『古市古墳群の終焉を考える』20～31頁 藤井寺市教育委員会 2003年3月
- 「討論」広瀬和雄・小路田泰直編『弥生時代千年の問い—古代観の大転換—』99～165頁 ゆまに書房 2003年9月
- 「過去と現代をつなぐやさしい言葉」『文化遺産の世界』VOL.11 12～13頁 国際航業株式会社文化事業部 2003年11月
- 「座談会・これからの埋蔵文化財行政を考える（第4回：続・考古学研究と埋蔵文化財文化財行政）」『考古学研究』196 19～29頁 考古学研究会 2003年
- 「古市古墳群の終焉—後期大和政権への考古学的アプローチ—」『古市古墳群の終焉を考える』35～68頁 藤井寺市・藤井寺市教育委員会 2004年3月
- 「弥生墳墓の歴史的意義—多様性と共通性の意義—」『伊勢湾岸における弥生時代後期を巡る諸問題 山中式の成立と解体』227～232頁 第11回東海考古学フォーラム三重大会実行委員会 2004年3月
- 「弥生都市をめぐって」『環 Vol.17 特集・都市とは何か』146～147頁 藤原書店 2004年4月
- 「古代人の心性を探る」『弥生の神々と祭り 山陰弥生文化シンポジウム』4～5頁 山陰弥生文化シンポジウム実行委員会 2004年7月
- 「古墳時代の他界はどこか—装飾古墳に形象された死の記憶—」『歴博』125号 14～18頁 国立歴史民俗博物館 2004年7月
- 『加悦町歴史討論会 緊急対談 丹後最古の王墓「日吉ヶ丘墳墓」出現の謎に迫る』加悦町・加悦町教育委員会 2004年9月
- 「巨大前方後円墳の環大和政権配置」『古代王権の残影』2004年歴史街道ウォーク&トーク実行委員会 12～20頁 2004年10月
- 「歴史のストックを活かした街づくり」『第4回神在月古代文化シンポジウム 銅剣発見20周年記念特別企画 検証・荒神谷遺跡—これまでの20年・これからの20年—』1～3頁 島根県教育庁古代文化センター 2004年10月
-

-
- 「鼎談—地域史の再構築に向けて—」広瀬和雄編『前方後円墳とちりめん街道 地域史から日本史へ』3～70頁 昭和堂 2005年1月
- 「歴史のストックを活かした街づくり」『しまねの古代文化』第12号 69～85頁 島根県古代文化センター 2005年3月
- 「解説」『佐原真の仕事6 考古学と現代』303～310頁 岩波書店 2005年9月
- 「日本古代国家の形成をめぐる」『第18回濱田青陵賞授賞式記念シンポジウム』35～43頁 岸和田市・朝日新聞社 2005年9月
- 「大学と埋蔵文化財行政」『中世考古学の総合的研究 文化財行政学研究委員会中間報告書』4～5頁 2005年9月
- 「埋蔵文化財行政の理念構築に向けて」『中世考古学の総合的研究 文化財行政学研究委員会中間報告書』8～11頁 2005年9月
- 「日本の遺跡活用と観光」『観光考古学Ⅰ』3～4頁 国際航業社文化事業部 2005年10月
- 討論「王統譜」広瀬和雄・小路田泰直編『王統譜』181～222頁 青木書店 2005年10月
- 「前方後円墳国家から見た吉備」『造山古墳の謎を追う』1～5頁 山陽新聞社 2005年12月
- 「集落・都市論」佐原真、ウエルナー・シュタインハウス監修『日本の考古学』301～306頁 学生社 2005年12月
- 「弥生・古墳時代のカミ観念」『大和美』110号 20～34頁 大神神社 2006年1月
- 「歴史のストックを活かした街づくり—史跡公園の現状と課題—」『シンポジウム古代遺跡の復元と整備』1～8頁 奈良女子大学 2006年1月
- 「古代集落研究の地平」『古代集落からみた播磨』1～16頁 第6回播磨考古学研究集会事務局 2006年1月
- 「日本の遺跡活用と観光」『観光考古学Ⅱ』2～9頁 国際航業社文化事業部 2006年3月
- 「推古朝前後の東国政治動向—後期前方後円墳と横穴式石室」『古代史フォーラム大和政権の源流』1～12頁 フィールドミュージアムトーク史遊会 2006年2月
- 「広瀬和雄が歩く歴史創造の旅No1 戦乱の武将をたどる中世山城」『文化遺産の世界』VOL 21 20～21頁 国際航業株式会社 2006年5月
- 「歴博けんきゅう便第25回『古代における生産と権力とイデオロギー』」『歴博』137号 24～25頁 国立歴史民俗博物館 2006年7月
- 「広瀬和雄が歩く歴史創造の旅No2 霊魂観の誕生」『文化遺産の世界』VOL 22 20～21頁 国際航業株式会社 2006年8月
- 「古代人の心性を探る」『弥生の神々と祭り』4～5頁 2006年8月
- 「東国の横穴式石室からみた政治動向」『古墳時代における地域と集団Ⅱ—横穴式石室からみた伊勢と三河の交流—』1～10頁 考古学研究会東海例会 2006年8月
- 「史跡公園は考古学研究の試金石」『考古学ジャーナル』1頁 ニューサイエンス社 2006年9月
- 「広瀬和雄が歩く歴史創造の旅No3 国家フロンティアを考える」『文化遺産の世界』VOL 23 22～23頁 国際航業株式会社 2006年11月
- 「史跡公園を見つめなおす—考古学の可能性を求めて」『史跡天然記念物フォーラム』3頁 愛知県史跡整備市町村協議会 2006年12月
- 「大山古墳—仁徳陵」小林達雄編『考古学ハンドブック』250頁 新書館 2007年1月
- 「広瀬和雄が歩く歴史創造の旅No4 弥生の神々との遭遇」『文化遺産の世界』VOL 24 20～21頁 国際航業株式会社 2007年2月
- 「推古朝前後の東国政治動向」『ヤマト政権の源流 南河内の歴史文化遺産を考える』古代史フォーラム 2007 1～12頁 フィールドミュージアムトーク史遊会 2007年2月
- 「序章—考古学の現在」広瀬和雄編『考古学の基礎知識』15～32頁 角川書店 2007年5月
- 「書評 沼澤豊『前方後円墳と帆立貝古墳』」『季刊考古学第100号 特集21世紀の日本考古学』155頁 雄山閣 2007年8月
-

-
- 「国家フロンティアを考える—志波城と「蝦夷の墳墓」」『長岡京遷都—桓武朝と激動の時代』44～45頁
国立歴史民俗博物館 2007年10月
- 「考古学からみた8・9世紀の画期」『長岡京遷都—桓武朝と激動の時代』142～143頁 国立歴史民俗博物館
2007年10月
- 「古代人の心性を探る」『古代史フォーラム2008 畿内の巨大古墳を考える』1～10頁 羽曳野市・羽曳野
市教育委員会・歴史街道推進協議会 2008年2月
- 「討論 支配の古代史」194～245頁 広瀬和雄・仁藤敦史編『支配の古代史』学生社 2008年3月
- 「新しい古墳時代像を求めて—一律令国家と〈前方後円墳国家〉—」『中央大学考古学研究会創設40周年記念
公開講演会 考古学最前線～地中からのメッセージ～』3～8頁 文化連盟 中央大学考古学研究会
2008年6月
- 「丹後の巨大前方後円墳」『与謝野町歴史シンポジウム 与謝野,その歴史に日本の起源を探る—海の道 鉄
の道 絹の道—講演資料集』1～4頁 与謝野町・与謝野町教育委員会 2008年7月
- 「前方後円墳と史跡公園—和泉黄金塚古墳を考えるために—」『和泉黄金塚古墳国史跡指定記念・日本考古学
協会創立60周年記念シンポジウム 和泉黄金塚古墳を考える』20～29頁 和泉市教育委員会 2008年
7月
- 「弥生古墳時代のカミ観念」『三輪山と古代の神まつり』42～71頁 学生社 2008年8月
- 記念シンポジウム「弥生・古墳時代の墳墓祭祀とカミ観念」『岸和田市文化賞 第21回濱田青陵賞授賞式』
41～47頁 岸和田市・岸和田市教育委員会・朝日新聞社 2008年9月
- 「弥生都市と大型環濠集落」『九州北部三県姉妹遺跡跡結10年記念事業 シンポジウム「よみがえる弥生都
市—邪馬台国時代のまちづくり—」』28～29頁 福岡県教育委員会 2008年9月
- 「古墳時代『地域』3題」『文科年学術フォーラム2008』20～21頁 総合研究大学院大学 文化科学研究科
2008年12月
- 「共同研究の経過と概要」『古代における生産と権力とイデオロギー』国立歴史民俗博物館研究報告第152集
1～16頁 国立歴史民俗博物館 2009年3月
- 「東京の史跡公園を訪ねて」『歴博』153号 6～10頁 国立歴史民俗博物館 2009年3月
- 「コメント④」『人間文化研究機構連携研究 シンポジウム ユーラシアと日本 いまなぜ国民国家か 国民
国家の過去・現在・未来 報告書』139～140頁 人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本:交流と表象」
研究プロジェクト 国立民族学博物館機関研究「ユーラシアと日本:交流とイメージ」2009年3月
- 「丹後の巨大前方後円墳」『与謝野,その歴史に日本の起源を探る』6～13頁 与謝野町・与謝野町教育委
員会 2009年3月
- 「書評 設楽博巳『弥生再葬墓と社会』」『季刊考古学』第107号 101頁 雄山閣 2009年5月
- 「東国前方後円墳の消滅に関する二,三の論点」『東国古墳研究会シンポジウム 東国における前方後円墳の
消滅 発表要旨』125～129頁 東国古墳研究会 2009年6月
- 「前期大和政権の構造—大和・柳本古墳群をめぐって—」『大美和』第117号 26～35頁 大神神社 2009
年7月
- 「古墳時代時代像の再構築をめざして」『歴博』155号 26～27頁 国立歴史民俗博物館 2009年7月
- 「古墳時代『地域』3題」『シンポジウム文化科学研究における「地域」文化・学術フォーラム』45～62頁
総合研究大学院大学/文化科学研究科 2009年9月
- 「山陰の弥生都市」『日韓先史時代の集落研究 発表要旨集』111～116頁 国立歴史民俗博物館 2009年
10月
- 基調講演「これからの史跡整備—歴史のストックを活かした街づくりに向けて—」『市民参加による遺跡の
保存・整備年活用～第34回全国遺跡環境整備会議資料集～』2～10頁 第34回全国遺跡環境整備会議
実行委員会 鳥根県教育委員会・松江市教育委員会 2009年11月
- 「前方後円墳とはなにか」『歴博』157号 2～5頁 国立歴史民俗博物館 2009年11月
- 「古墳の編年観と日韓交渉史」『日韓における古墳・三国時代の年代観Ⅲ』日本国人間文化研究機構国立歴史
民俗博物館・大韓民國国立釜山大学校博物館 121～137頁 2009年12月
-

-
- 「巨大古墳の環大和政権配置」『第1回百舌鳥古墳群講演会 百舌鳥野の幕開け—大王墓築造開始の謎に迫る—発表資料集』103～111頁 堺市 2010年3月
- 「歴博研究便 国際研究集会 日韓における古墳・三国時代の年代観 Ⅲ」『歴博』160号 24～25頁 国立歴史民俗博物館 2010年5月
- 「歴博研究最前線 東国の初期前方後円墳を考える」『国立歴史民俗博物館友の会ニュース』3頁 2011年6月
- 「前方後円墳と邪馬台国はつながるのか」『歴史REAL』3号 洋泉社MOOK 2011年7月
- 「6・7世紀の多摩川流域—武蔵地域の政治センターの形成—」『平成23年度 東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業 公開セミナー 武蔵・相模の後期古墳—その地域性と交流をさぐる—』財団法人東京都スポーツ文化事業団 東京都埋蔵文化財センター 18～22頁 2012年1月
- 「壱岐島の歴史的意義」『国史跡「壱岐古墳群」指定3周年記念国際シンポジウム 巨石古墳の時代—東アジアにおける壱岐古墳群の位置—【発表資料集】』73～80頁 壱岐市教育委員会 2012年2月
- 「百舌鳥・古市古墳群」『週刊日本の世界遺産』24 26～29頁 朝日新聞出版 2012年9月
- 「倭と新羅の王権比較序論—5世紀を中心として—」『新羅と倭の交流』7～18頁 慶北大学校博物館・国立歴史民俗博物館 2012年12月
- 「石清尾山古墳群の歴史的意義」『シンポジウム 高松平野の前期古墳を考える』1～10頁 高松市教育委員会・徳島文理大学 2013年1月
- 「初期前方後円墳と邪馬台国」『桜井市纏向学研究センター設立記念東京フォーラム 纏向出現—纏向に卑弥呼がいたなら—』20頁～30頁 奈良県桜井市 2013年2月
- 「書評 笹生衛『日本古代の祭祀考古学』」『季刊考古学』第122号 101頁 雄山閣 2013年2月
-